EU Trends

発表日:2019 年5月 13 日(月)

EU再建のドリーム・チーム

～EUの主要3ポストは誰の手に？～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理(TEL:03-5221-4527)

◇ 欧州委員会委員長、欧州理事会常任議長、欧州中央銀行総裁の人事は、月末の欧州議会選挙後に本格化しよう。主要人事が重なる今回は、３ポストを一体的に決定する可能性がある。鍵を握るのは委員長人事。議会最大会派の筆頭候補が就く場合、ドイツが手に入れよう。ただ、フランスのマクロン大統領が筆頭候補制に反対。妥協案として浮上するのが、最大会派出身でフランス人のバルニエ元外相の委員長就任。さらに待望論が聞かれるのが、ドイツのメルケル首相の常任議長就任。ドイツとフランスの大物政治家がタッグを組む最強人事はあるのか、期待が膨らむ。

今年後半はＥＵの主要ポストが総入れ替えとなる。なかでも、①ＥＵ内の政策立案・執行を担う行政府で、約２万５千人のＥＵ官僚を束ねる欧州委員会の委員長、②国際的な場でＥＵを代表し、正式呼称ではないが時にＥＵ大統領と称される欧州理事会（ＥＵの政治指針を定める最高意思決定機関で、ＥＵ加盟国の首脳で構成される）の常任議長、③ＥＵの単一通貨ユーロの番人で、ユーロ圏内の金融政策を一元的に担う欧州中央銀行（ＥＣＢ）の総裁の３ポストの行方が注目を集める。

①は現在、ルクセンブルク首相やユーロ圏財務相会合（ユーログループ）議長を歴任したユンケル氏が務め、10月31日に５年の任期を満了する。②は従来、加盟国首脳が半年毎の輪番制で務めてきたが、2009年の基本条約改正で常任議長ポストが新設され、元ベルギー首相のファンロンパイ氏が初代議長に就任した。元ポーランド首相のトゥスク氏が2014年に二代目議長に就任し、２年半の任期を２期務め、11月30日に退任する。③は単一通貨の発足に伴い1998年に創設され、オランダ中銀総裁出身のドイセンベルク氏、フランス中銀総裁出身のトリシェ氏の後を継ぎ、2011年にイタリア中銀総裁出身のドラギ氏が三代目の総裁に就任し、10月31日に８年間の任期を終える（図表１）。

ＥＵの主要ポストの人選は人物本位を建前としながら、実際には特定国の出身者がポストを独占することがないように、加盟国間のバランスが配慮される（図表２）。主要人事が重なる今回は、３ポストを一体的に決定する可能性がある。欧州首脳会議の議長としてプロセスを主導するトゥスク氏は先週、６月20～21日の欧州首脳会議での決定を目指すと発言した。前述の①は、欧州議会選挙の結果を踏まえ、欧州理事会の特定多数決（加盟国の55％以上、人口構成比の65％以上の賛成多数）で候補者を指名し、欧州議会の過半数で選出される。人選が本格化するのは、５月23～26日にＥＵ各国で行われる欧州議会選挙の結果が判明してからとなりそうだ。

ユンケル氏の選出時は、欧州議会の最大会派の筆頭候補（spitzenkandidat）が委員長候補に指名されたが、今回もこの方式が採用されるかは決まっていない。フランスのマクロン大統領は先週、ルーマニアのシビウで開かれた欧州首脳会議で、筆頭候補制による委員長選出に改めて異を唱えた。今回の欧州議会選挙ではＥＵに懐疑的なポピュリスト勢力の躍進が不安視されているものの、各種の世論調査では引き続き、欧州人民党（ＥＰＰ）が最大会派を維持するとみられている（図表３）。

欧州人民党の筆頭候補は、ドイツのメルケル首相が率いるキリスト教民主同盟（ＣＤＵ）の姉妹政党で、バイエルン州の地域政党・キリスト教社会同盟（ＣＳＵ）出身の欧州議会議員で、欧州人民党の代表を務めているウェーバー氏。ドイツ出身者が順当に委員長ポストを手に入れる場合、②と③のポストはドイツ以外に渡ることになりそうだ。

②は欧州理事会の特定多数決で選出され、これまでドイツやフランスなどの大国出身者が選ばれたことはない。有力候補として、リトアニアのクリバウスカイテ大統領の名前が挙がる。同国初の女性国家元首の同氏は、財務相や欧州委員などを歴任し、リトアニアの「鉄の女」とも称される。大統領として絶大な人気を誇るが、三選禁止規定で近く退任する。後任を選ぶ大統領選挙は12日に行われ、初回投票で50％以上の票を獲得した候補が現れなかったことで、26日に元財務相と大手行出身の上位２名による決選投票が予定されている。ダイバシティを重視するＥＵは重要ポストに女性の割合が低い点を常々問題視しており、この点からもクリバウスカイテ氏は適任とされる。

③はユーロ圏財務相会合で指名され、欧州理事会（実際にはユーロ圏首脳）の特定多数決により選出される。ドラギ氏の後任候補としては、フランス出身のビルロワドガロ中銀総裁やクーレ現ＥＣＢ理事、ドイツ連銀（中銀）のバイトマン総裁、フィンランド中銀のリイカネン前総裁やレーン現総裁の名前が挙がる。①のポストをドイツが手に入れる場合、③はフランスの手に渡る可能性が高い。ただ、ドラギ総裁の前任のトリシェ前総裁がフランス出身者だったため、フランス人の再登用が敬遠される場合には、フィンランド出身の２人が有力候補に浮上しよう。なお、クーレ氏の総裁就任には、ＥＣＢ理事の再任規定の変更が必要となる。

下馬評通りにドイツが①のポストを手に入れるとは限らない。欧州議会選挙の世論調査では、現最大会派の欧州人民党と、同党に協力する現第二会派の社会民主進歩同盟（Ｓ＆Ｄ）の差はそれほど大きくない（前述の図表３）。ＥＰＰに所属するハンガリーの与党・フィデスは、ＥＵ批判を繰り返しており、同党から無期限の資格停止処分となっている。同党を率いるオルバン同国首相はウェーバー氏を支持しないことを表明し、議会選挙後の会派離脱も噂されている。Ｓ＆Ｄが最大会派となった場合の筆頭候補は、オランダの労働党出身で同国の元外相を歴任し、現在は欧州委員会の筆頭副委員長を務めるティマーマンス氏となる。ただ、同氏は法の支配を巡ってハンガリーやポーランド政府と対立してきた経緯があり、両国首脳の支持を得るのは難しい。オランダが①のポストを手に入れる場合、ドイツとフランスは③のポストを巡ってデッドヒートを繰り広げそうだ。

現第三会派の欧州自由民主同盟（ALDE）の筆頭候補はデンマーク出身で、同国の中道自由主義政党・ラディケーリの党首や同国の副首相を歴任後、現在は競争担当の欧州委員を務めているベステアー氏だ。競争担当委員としての手腕は高く評価されているが、マクロン大統領が旗揚げした共和国前進が合流した場合もALDEが最大会派となるのは難しそうだ。共和国前進は現在ALDEに所属する政党を結集し、新たな中道会派の結成を目指している。その場合、マクロン大統領はベステアー氏ではなく、共和国前進の筆頭候補であるロワゾー前欧州問題担当相などを推す可能性がある。フランスが①のポストを手に入れる場合、ドイツ連銀のバイトマン総裁が③の有力候補となる。ただ、タカ派総裁の誕生に反発が広がる場合、妥協案としてフィンランドが③のポストを手に入れそうだ。

今回の欧州議会選挙では、イタリアで連立政権に加わる同盟、フランスでマクロン氏と大統領選を争ったルペン党首率いる国民連合など、ポピュリスト政党の躍進が確実視される。英国の欧州議会選挙参加で、同国で躍進するブレグジット党の躍進もあり、場合によってはポピュリスト勢力の

総獲得議席がＥＰＰを上回る可能性も取り沙汰されている（４月24日付けレポート「英国が欧州議会選挙の結果を左右する」を参照されたい）。ポピュリストが総結集し、筆頭候補制の下で欧州委員会の委員長が選出されれば、大波乱となる。ただ、同委員長は欧州首脳の特定多数決で候補者を指名し、欧州議会の過半数で選出される。筆頭候補制が明文化されたルールでない以上、ポピュリストが推す委員長候補（例えばイタリアのサルビーニ副首相など）が選出されることはない。

前述の通り、マクロン大統領は筆頭候補制に反対している。改選後は二大会派の合計でも過半数の議席に届かない可能性が高く、共和国前進が主導する中道会派がキャスティング・ボートを握る公算が大きい。その場合も、今のところ新たな中道会派が欧州議会の最大会派となる可能性は低い。この際、ＥＰＰが引き続き議会の最大会派として影響力を維持しつつ、ＥＵ改革を主導するマクロン大統領の政治的野心と合致するフランス出身の候補がいる。ＥＰＰに所属するフランスの共和党出身の元外相で、現在はブレグジット協議でＥＵ側の主席交渉官を務めるバルニエ氏だ。ブックメーカーの調査では、ＥＰＰの筆頭候補でないバルニエ氏の名前が上位に並ぶ。同氏が最近欧州各国を積極的に訪問しているのは、委員長人事での協力を働きかけているとの見方も浮上している。

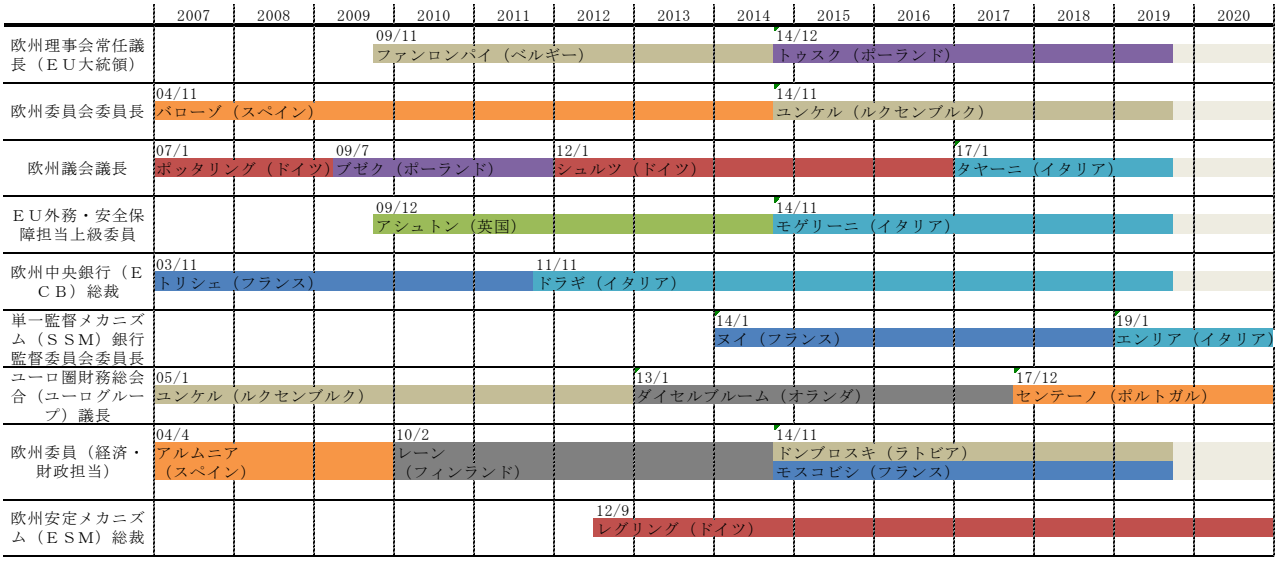
バルニエ委員長誕生時にドイツはＥＣＢの総裁ポストを要求するとみられるが、ここでタカ派総裁誕生に反対意見が出れば、ドイツは主要３ポストの何れも手に入れることが出来なくなる。そこでウルトラＣとして浮上するのが、ドイツのメルケル首相の常任議長就任だ。昨年12月にＣＤＵの党首の座をカレンバウアー氏に譲ったメルケル氏は、次の連邦議会選挙でのドイツおよびＥＵ政界からの引退を示唆し、ＥＵの主要ポストに就任する可能性を否定している。権力移譲途上にあることやドイツの不安定な政治情勢が不安材料となるが、ここにきてＣＤＵの支持率が持ち直し傾向にある点は、メルケル氏のＥＵ政界転身を後押ししよう。長年ＥＵ政界を引っ張ってきた同氏のＥＵ主要ポスト就任の待望論は根強い。ドイツとフランスの大物政治家がタッグを組んでＥＵ再建に取り組む未来には夢がある。ドリーム・チームの結成を見てみたい。

（図表１）今年注目のＥＵ人事の主な候補者

役職 （任命方法）	欧州委員会委員長 （欧州議会の過半数）	欧州理事会常任議長 （欧州理事会の特定多数決）		欧州中央銀行総裁 （ユーロ圏首脳の特定多数決）	
現在	ユンケル （ルクセンブルク）	トゥスク （ポーランド）		ドラギ （イタリア）	
筆頭候補制①	ウェーバー （ドイツ）	グリバウスカイテ （リトアニア）	ルッテ （オランダ）	ビルロワドガロ/クーレ （フランス）	
筆頭候補制②	ティマーマンス （オランダ）	グリバウスカイテ （リトアニア）		ビルロワドガロ/クーレ （フランス）	バイトマン （ドイツ）
折衷案	ベステアー （デンマーク）	グリバウスカイテ （リトアニア）	ルッテ （オランダ）	バイトマン （ドイツ）	リイカネン/レーン （フィンランド）
マクロン主導	ロワゾー/バルニエ （フランス）	グリバウスカイテ （リトアニア）	ルッテ （オランダ）	バイトマン （ドイツ）	リイカネン/レーン （フィンランド）
ドリーム・チーム	バルニエ （フランス）	メルケル （ドイツ）		リイカネン/レーン （フィンランド）	

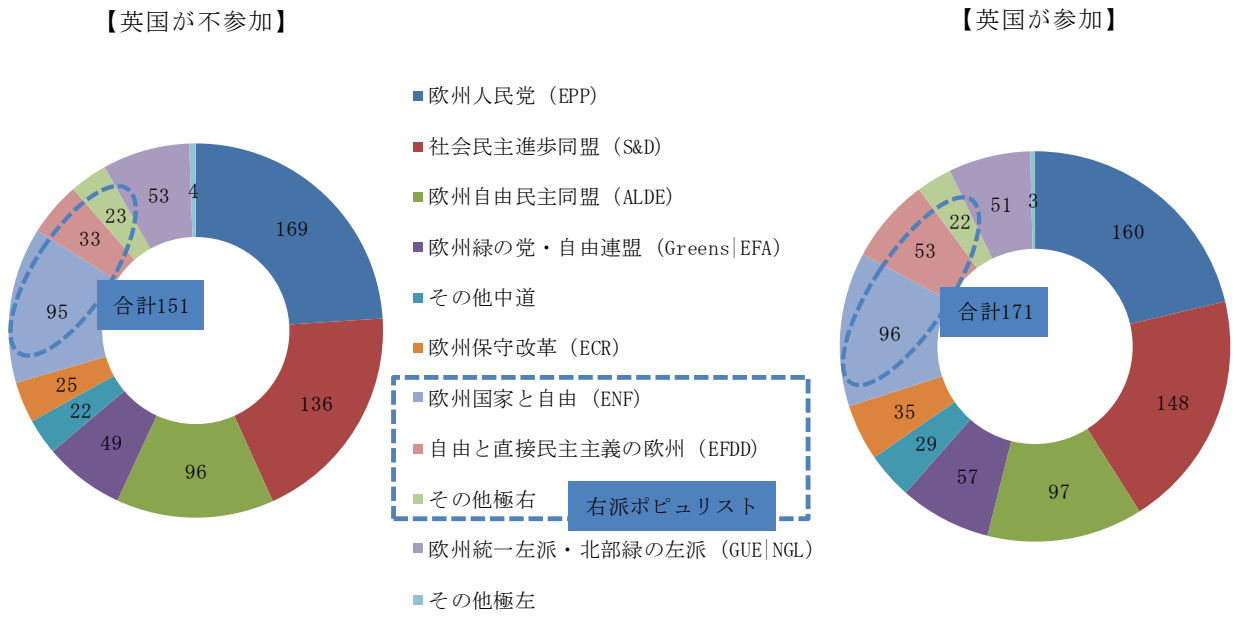
注：氏名の赤字は女性、括弧内は出身国、色分けは以下の通り
　　赤：ドイツ、青：フランス、橙：南欧、灰：ベネルクス、紫：北欧、緑：中東欧バルト
出所：第一生命経済研究所が作成

（図表２）ＥＵ関連の主要ポストと出身国



出所：第一生命経済研究所が作成

（図表３）欧州議会選挙の会派別予想獲得議席（調整後）



注：１）英国不参加の場合の定数は705議席に削減、英国参加時の定数は751議席で前回と同じ構成
　　２）ハンガリーのフィデスはＥＰＰではなく、ＥＮＦに含めた
　　３）ポーランドの法と正義はＥＣＲではなく、ＥＮＦに含めた
　　４）フランスの共和国前進はその他中道ではなく、ALDEに含めた
出所：European Elections Stats（5/8時点）より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。